

## ミャンマー発海上輸送本格化

# 年間400TEU超見込む

## 住金物産子会社のAGL

住金物産のNVOCC子会社エーシーエル(AGL、繊維カンパニー・SCM事業開発部長が社長兼務)は4月から、ミャンマー発海上輸送を本格化している。取扱品目は住金物産繊維カンパニーの輸入アパレル製品が大半だが、外部荷主の貨物も積極的に受託していく方針。初年度は400〜500TEUの取り扱いを見込んでおり、日系NVOCCのミャンマー発着物流としては最大。AGLではミャンマー発物流合理化に向け、住金物産と連携し、タイへの陸上輸送ルートへの検証なども進めていく。

AGLにとって最大荷主となる住金物産は、従来からミャンマー製品の調達を行ってきたが、特に昨年から拡大傾向が顕著になっている。一方で、ミャンマー発の物流に通じた日系物流企業は少なく、港湾・空港での積み残し、トランシッパのズレなど輸送上の問題がたびたび発生していた。A

GLでは親会社のSCM改善のため、地域の有力代理店と連携し、グループで物流をコントロールする体制に切り替えることにした。住金物産では繊維カンパニーからヤンゴンに複数の人員を派遣し、流通加工・検品などの拠点開設に向けた準備を進めているという。住金物産のミャンマー委

託工場は同国最大の都市ヤンゴン周辺に集中しており、出荷はヤンゴン港からとなる。フィーダー船を利便してシンガポールまで輸送し、同港で日本向け本船に接続している。また、トランシッパなどトレードの特性を考慮した同航路専用のトラックシステムも開発しており、最終荷主に

も正確な輸送情報提供が可能。緊急時や高額商品の航空輸送では、ヤンゴン空港からシンガポール経由で対応する。ただし、ヤンゴンとシンガポール間は旅客便のみで、機材も小型で貨物のキャパシティーには制限がある。積み残しも頻発し不安定なため、物量がま

ればヤンゴンとシンガポール間を海上輸送し、シンガポールから航空に切り替えるシー&エア輸送も行う。なお、ミャンマーにとってアパレルは重要な輸出産業の一つ。09年度輸出額では天然ガス、豆類に続く第3位で、天然ガスを除いた全体の輸出額の6%を占めている(シエトロ調べ)。

日本は同国にとって最大のアパレル製品輸出先だ。日本のメーカーにとっても勤勉で高い技能を持つ労働力が、潤沢かつアジア他国に対しても競争力のあるコストで確保できる生産は魅力的で、調達金額も年々増加している。

日本繊維輸入組合が貿易統計をベースにまとめた資

料によると、2010年衣類輸入額に占めるミャンマーのシェアは0.7%とわずかながら、07年0.4%、08年0.5%、09年0.6%と着実に増加。輸入額も158億5600万円・前年比で13.8%増という実績。品目は布帛製品が大半で、ニット製品、付属品は計1%に満たない。